開校 150 周年に寄せて

（姉妹校縁組の時の様子）

前校長の客野智先生、前々校長の足立智美先生に寄稿していただきました。

赤江小学校の 150 年をみますと、前半の３分の１は、「統合前で別々の校舎で学んでいた時代」、中盤の３分の１は、「統合されて現在の場所に建てられた木造校舎で学んでいた時代」、後半の３分の１は、「児童交流」と「鉄筋造りの現校舎で学んでいる時代」に大きく分けられるように感じます。お二人とも本校の特色ある教育活動である「児童交流」について思い出を書いてくださいました。

足立 智美 先生（平成 28 年度・29 年度校長）に寄せていただいた言葉

私は母校で迎えた教職最後の２年間、50 年続く児童交流を身をもって体験させていただきました。バスから降りてくる白鳥小学校を迎える全校児童 の興奮と瞳の輝き、夜のイベントで弾ける笑顔、涙で見送る純真な姿…参加 した誰もの生涯の思い出でしょう。PTA と地域が一体となって重ねてこられたスケールの大きなこの活動は、「進取の心」と「相互扶助」の赤江の風土 が生み育てたものであると敬服しております。 過日、開校百年事業の「赤江教育百年誌」の卒業生欄に拙い自分の作文を 見つけ赤面しました。と同時に、いかに歳を重ねても、赤江を離れ遠隔の地にあってもふるさと赤江への思慕と感謝の念は終生変わらないとの思いを深めました。

客野　智 先生（兵瀬 30 年度～令和２年度校長）に寄せていただいた言葉

私は母校で迎えた教職最後の２年間、50 年続く児童交流を身をもって体 験させていただきました。バスから降りてくる白鳥小学校を迎える全校児童の興奮と瞳の輝き、夜のイベントで弾ける笑顔、涙で見送る純真な姿…参加 した誰もの生涯の思い出でしょう。PTA と地域が一体となって重ねてこら れたスケールの大きなこの活動は、「進取の心」と「相互扶助」の赤江の風土 が生み育てたものであると敬服しております。 過日、開校百年事業の「赤江教育百年誌」の卒業生欄に拙い自分の作文を 見つけ赤面しました。と同時に、いかに歳を重ねても、赤江を離れ遠隔の地にあってもふるさと赤 江への思慕と感謝の念は終生変わらないとの思いを深めました。

私は母校で迎えた教職最後の２年間、50 年続く児童交流を身をもって体験させていただきました。バスから降りてくる白鳥小学校を迎える全校児童 の興奮と瞳の輝き、夜のイベントで弾ける笑顔、涙で見送る純真な姿…参加した誰もの生涯の思い出でしょう。PTA と地域が一体となって重ねてこられたスケールの大きなこの活動は、「進取の心」と「相互扶助」の赤江の風土 が生み育てたものであると敬服しております。 過日、開校百年事業の「赤江教育百年誌」の卒業生欄に拙い自分の作文を 見つけ赤面しました。と同時に、いかに歳を重ねても、赤江を離れ遠隔の地にあってもふるさと赤江への思慕と感謝の念は終生変わらないとの思いを深めました。